

# 被写体としての〈銀座〉

〈銀座フォト〉  
プライベート

1枚の写真はさまざまなことを伝えてくれます。被写体となった人物や建物ばかりでなく、その背景から時代の風俗、時代の空気……、あらゆることが読み取れます。

デジタルカメラが一般化した今、私たちはいつのまにか、写真は簡単に加工できるように思っていますが、写真は文字通り、真実を写し、歴史を残しているのです。

ここに数十枚の写真があります。戦後まもない銀座のまちを、十代の少女が撮り続けた写真です。少女は銀座のまちに魅せられ、足しげく通っては、街並みと、そこで紡ぎだされる人々のドラマを撮影しました。ところが父の反対にあい、少女は写真の道を断念せざるを得なくなります。そして撮影された写真のネガは行方がわからなくなっていました。

数十年の年月を経て、それらのネガが見つかります。よみがえった写真に映っていた、かつての銀座の姿とは？

時空を超えた写真を語ることから、写真というアートのもつ可能性と、未来の銀座まちづくりのヒントを探ります。



Photo by Toshie Saito

日時 2012年10月30日(火) 15時～17時 \*14時半開場。受付開始

会場 銀座フェニックスプラザ (定員150名) 中央区銀座 3-9-11 紙パルプ会館2F  
<http://www.kamipa-kaikan.co.jp/>

〈銀座フォト〉  
プライベート

銀座アートエクステンションスクールでは来年度より、写真を中心としたイベント〈銀座フォト〉を企画しています。このフォーラムは、〈銀座フォト〉のプライベートです。

## Program

15:00 開演挨拶

15:05～17:00 トークショー

### 「被写体としての〈銀座〉」

齋藤利江(写真家)

三枝 亮(ギンザのサエグサ)

山本豊津(全銀座会・東京画廊)ほか

独自の視点から昭和の生活、街の姿を取り続けた写真家・齋藤利江さんに、十代の少女の眼にうつった銀座の魅力を語ってもらいます。写真には、銀座のどんな歴史が記されているのでしょうか。そして、今、銀座は被写体としてどう映るのでしょうか？



Photo by Toshie Saito

齋藤利江プロフィール

昭和14年群馬県桐生市生まれ。県立桐生女子高校卒業後、桐生市にカメラのアサヒ堂を創設。昭和38年、長女を写し主婦の友社主催「すてきな赤ちゃん」写真コンテストで最高賞受賞。以来、写真を撮り続けながら家業に専念。平成3年以降、全国各地で写真展を開催。公益社団法人日本写真協会会員(PSJ)、一般社団法人日本写真作家協会会員(JPA)。現在、「月イチ三丁目の夕日」に写真コラムを連載中。

※内容の詳細は、ホームページをごらんください。 <http://www.ginza-machidukuri.jp>

※参加申込書は裏面にございます。

〈主催〉 銀座街づくり会議+銀座アート・エクステンション・スクール  
〈共催〉 全銀座会、一般社団法人 銀座通連合会  
〈協賛〉 一般財団法人 交詢社 〈協力〉 銀座フェニックスプラザ  
〈後援〉 中央区

【問い合わせ先】

銀座街づくり会議 03-3567-1535

## 銀座街づくり会議とは――

銀座は明治以来、全国の商店街の象徴として皆様に愛されてまいりました。街の歴史をふまえた伝統を大切にしながらも常に先進的であり、情報発信をし続けてきたからです。そして「銀座フィルター」とも名付けられるべき、目に見えないフィルターが「銀座らしさ」を保ちつづけてきました。

しかし、昨今、経済状況の変動や国際化のなかで、目に見えないフィルターに頼るばかりでは、銀座の場所性や歴史性、お客様から愛されてきた街の特性を保つことができないのではないかという危惧も生まれてきました。これまで街が共有してきた「銀座らしさ」とは何かということが改めて問われています。

そこで、銀座で代々商売を営む者、銀座に新たに入ってきてくださる方々が、ともに共有できる銀座将来像を描き、銀座をよりよい街としてゆくために、2004年3月、銀座内の約40団体の集まりである全銀座会を母体として「銀座街づくり会議」を発足いたしました。2006年からは中央区市街地再開発事業要綱に基づき銀座デザイン協議会の運営を行い、銀座に新しく建つ建築物のデザイン、工作物・広告デザインについての協議を行っています。

## 銀座アートエクステンションスクールとは――

美術系大学の多くは東京郊外や地方都市に設立され、都心を離れる一方、芸術文化の情報発信の場は多極化しながらも、依然として都市部に集中しています。特に銀座は、世界でも希に見るギャラリーの集積地となっています。

銀座アートエクステンションスクールは、いつのまにか乖離してしまった美術の現場と教育の現場を、銀座で融合させることを通して、新たな実践教育を創出し、かつ銀座を創造の現場とするために構想されました。

2002年より6美術大学とともに銀座スペースデザイン学生コンペティションを開催し、8年間で約1300点の作品のなかから、銀座の企業の協力のもと約50点の受賞作品を実際の店舗で実現してきました。コンペティションは一つの区切りをつけましたが、大学と街との新たな関わりを模索しています。

## 銀座デザインフォーラムとは――

近代とともに生まれた街・銀座が抱える課題は、日本の街の将来を暗示しています。上記2つを初めとし、これまで銀座において行われているさまざまな活動に十数大学が参加し、国内外の大学生・大学院生が銀座を歩き回り調査し、研究成果や作品を発表しています。そして彼らを指導した先生方がいます。また、これまで銀座において行われたシンポジウム等にご講演いただいた数十名の専門家・文化人の方々、こういったすべてのみなさんを、銀座を支えるゆるやかな知的ネットワークと位置づけ、銀座をはじめとする日本の街は今後どうなっていくのか、ともに考え行動するために「銀座デザインフォーラム」を立ち上げました。

**2012年10月30日(火) 15時～17時** 銀座フェニックスプラザ(中央区銀座3-9-11 紙パルプ会館2F)

## シンポジウム「被写体としての〈銀座〉」参加申込書

ファックスにて、10月25日(木)までにお申し込みください。ホームページからもお申し込みいただけます。

ファックス **03-3563-0236**

ホームページ  
<http://www.ginza-machidukuri.jp>

- \*参加費は無料です。
- \*誠に恐れ入りますが、1社2名様までとさせていただきます。
- \*定員150名(定員に達し次第、申込を締め切らせていただきます。悪しからずご了承ください。)
- \*問い合わせ先 銀座街づくり会議 TEL:03-3567-1535 (竹沢・黒田)

.....  
●お名前

.....  
●貴社名/所属

.....  
●ご住所

.....  
●TEL

.....  
●FAX

.....  
●Eメールアドレス

\*参加受付返信のため、FAXまたはEメールアドレスのいずれかを必ずご記入下さい。